課題番号１

持続可能な農業経営に向けて

～　輪作の推進と花き生産力の維持　～

対象：岩見沢市栗沢町越前・自協地区（22戸）

１　活動の背景

(1) 水稲、畑作＋花き（ひまわり等）が主体の経営（図１）。

(2) 収益性の高い輪作品目を選定するため、経営分析に基づいた作付け構成の検討が必要。

(3) 乾田直播水稲と畑作物を輪作しながら全ての作物を安定的に生産するため「水田の汎用化」が必要。

(4) ひまわりでは土壌pH酸性化、高温障害等が問題。採花率向上に向けて、土壌改善、高温対策、病害虫防除を支援。

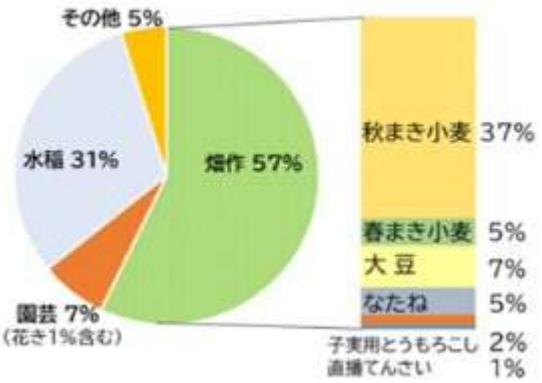

図１　越前・自協地区の作付構成（R2）

２　活動の経過

秋まき小麦の安定生産技術の実践

生育量に応じた適正肥培管理

・起生期、幼形期、止葉期における施肥管理の支援

病害虫防除の適正化

・赤さび病防除のため展示ほを活用した情報提供

起生期追肥の検討

展示ほの設置

輪作推進に向けた技術の実践

乾田直播水稲の安定生産および水田の汎用化

・乾田直播水稲の安定生産に向け、ほ場作りや適正は種および肥培管理といった技術項目を設定し、個別巡回で支援

・水田の汎用化に向け、排水対策や土づくりといった技術項目を設定し、支援

経営改善手法の実践

・個々の経営分析データを使用し輪作計画作成を支援

砕土率の向上

輪作計画作成支援

花き生産力の維持に向けた取組

土壌診断結果を返却

検討会の実施

基本技術の実践

・全ハウスのｐＨを分析

・病虫発生予察の情報提供

・は種時の遮光ネット被覆を提案

多様な人材の活用

・課題を共有する検討会を開催

・農福連携の作業事例を収集

３　成果の具体的内容

－【秋まき小麦の収量高位安定化】

・「きたほなみ」　生育期節に応じた施肥体系を確立
・「キタノカオリ」　赤さび病の適期防除に向けた取組

秋まき小麦の安定生産技術の実践【実践農家戸数　目標１１戸⇒実績８戸】

・生育量に応じた適正肥培管理
・病害虫防除の適正化
・適正は種量、ｐH改善

秋まき小麦の安定生産に向けた技術項目を各戸で実施

関係機関と現地研修会を実施

－【輪作の推進】

・乾田直播水稲の安定生産に向けた技術の実践および水田の汎用化に向けた取組
・農業所得の変化を確認しながら、経営への貢献度が高い輪作計画を作成

乾田直播水稲の安定生産技術【実践農家戸数　目標８戸⇒実績１０戸】

は種深度の確認

レベラーによる均平化

現地研修会の実施

水田の汎用化【実践農家戸数　目標８戸⇒実績１５戸】

額縁明渠で排水対策

暗渠管の清掃を実施

緑肥で有機物供給

経営改善手法の実践　【輪作計画作成戸数　目標１６戸⇒実績１６戸】

面談しながら輪作計画を作成

ほ場番号	面積a	R3作前	R6作後	R7作前	2025 R7
34	67				イネ：きらら397
35	23.1				イネ：きらら397
36	44				イネ：きらら397
37	119.8		緑肥		大豆：ユキホマレ
38	119.8		緑肥		大豆：ユキホマレ
39	113				イネ：ゆめぴりか

作成した輪作計画のイメージ

・過去の作付け履歴を遡ることができる
・収益性、労働力、ほ場条件を加味した営農計画を立てられる

令和１２年度まで完成

－【花き生産力の維持】

・全戸で測定結果に基づくｐＨ改善に取り組んだ
・人材活用の考え方について共有できた　振興局と連携し農福連携の事例を作成

基本技術の実践【実践農家戸数　目標４戸⇒実績６戸】

基本技術の実践		B	F	G	L	M	O
②土壌改良	pH改良	○	○	○	○	○	○
③病害虫対策	発生調査による適期防除	○	△	○	○	○	○
④栽培対策	適正資材補給	○	○	◎	○	○	○

①測定結果に基づく石灰資材の投入で○
②アザミウマ類、鱗翅目害虫、ハダニ類、灰色かび病の被害率3%以下で○
③は種時の被覆で○、さらに生育後半も被覆で◎

ひまわりの低pHハウスが29棟→17棟に減少

４　今後の対応

(1) 輪作の推進。　管内に活動成果の波及を目指す。
(2) 花き生産力の維持。　管内に活動成果の波及を目指す。